

公益財団法人 日本財団 御中

葛西臨海たんけん隊による
「学校教育と連携した海洋教育実施」
実施報告書

2013年7月11日・12日・18日実施

一般社団法人 葛西臨海・環境教育フォーラム作成

実施概要

実施日：7月11日（木）、7月12日（金）、7月18日（木） それぞれ9時～12時

対象：以下の江戸川区内小学校の6年生児童全クラスを対象。

7月11日：南葛西第三小、12日：二之江第三小、18日：臨海小

主催：一般社団法人 葛西臨海・環境教育フォーラム（事務局宮嶋隆行）

共催：東京海洋大学江戸前ESD協議会

助成：日本財団

講師：東京海洋大学名誉教授石丸隆、同教授河野博、同助教宮崎奈穂、ほか

NPO法人 生態教育センター 大原庄史 ほか

特別協賛：株式会社 ロッテ

参加の条件として以下を学校に課しております。

学校教育の中で正規のカリキュラム中に位置付けられること（＝課外授業等ではないこと）、その位置づけを具体的に示すこと、を条件として参加を募りました。

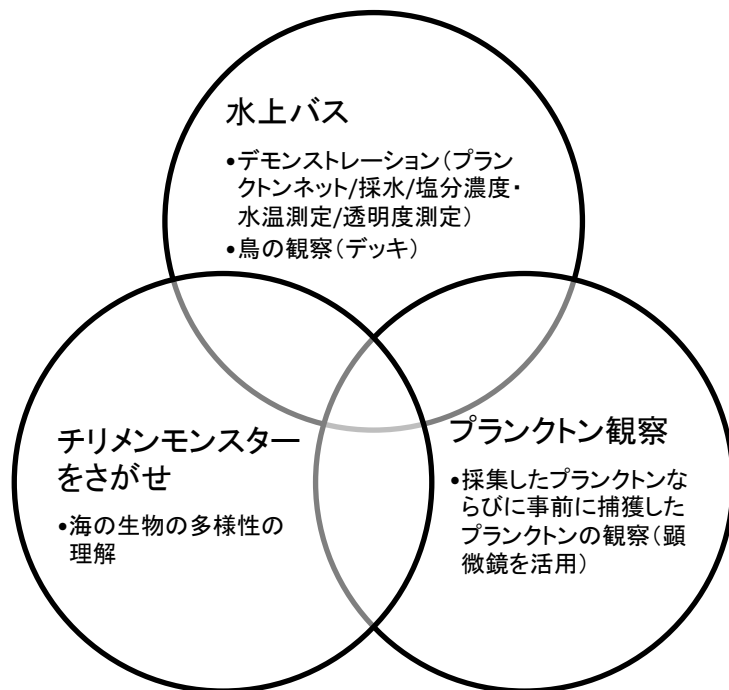
参加人数等

実施日	参加校名 ※すべて江戸川区立	参加数
7月11日(木)	南葛西第三小学校	6年生103名、教師4名、PTA2名 介助員2名 総計111名
7月12日(金)	二之江第三小学校	6年44名、教員4名、PTA10名 総計58名
7月18日(木)	臨海小学校	6年生94名、教師4名、PTA6名、青少年委員2名 総計106名
		3日間計児童275名、教師その他34名 総計309名

※7月12日には上記に加え清新第三小にお申し込みをいただいておりますが、当日は高温注意情報が発令されたため、主催者判断により中止といたしました。片道30分の徒歩が児童に負担となると考えられたためです。なお、二之江第三小学校は学校前のバス停から葛西臨海公園駅までの間を路線バスで移動するため、また、PTAの付き添いが10名付いたことから実施といたしました。

プログラム全体のコンセプト： 海の中の食べる食べられるを自分で見てみよう！！

- ・そうか、海の中の生物はつながっているんだ。
- ・私たちの生活も海の生物とつながっているんだ。



プランクトンからサカナ、鳥に至る食物連鎖の実際を体験・体感してみる。

左記3単位について児童が自身で記入する「指令書」を作成します。

実施は45分、休憩と移動で15分	9時～10時	10時～11時	11時～12時
プランクトン採集と鳥の観察 (水上バス上で実施)	1組	3組	2組
プランクトン観察 (クリスタルビューで実施)	2組	1組	3組
チリメンモンスター (クリスタルビューで実施)	3組	2組	1組

学校としての本プログラムの位置づけ・目的・獲得目標

7月11日実施 南葛西第三小学校

南葛西第三小学校のめあて

「自然環境について調べ、私たちのかわりについて考えよう」

理科として「生物と地球の環境」

単元の目標

- 1 生物が生きるためには水が不可欠であることをとらえる。
- 2 生物と水がかかわり合って、地球上に生命が栄えていることをとらえる。
- 3 自然を守る態度を身に付ける。

総合的な学習の時間として 6年「三小タイム」

「地球」「環境」では、

学校周辺の動植物、葛西臨海公園など地域の自然環境を積極的に学習に取り入れ、環境改善に向けた取り組みを充実させる。

このプロジェクトでは、身近な自然である葛西臨海公園の生き物を観察し、自然について興味・関心を深め、地域環境に関心をもたせる本校の環境教育に即した活動ととらえることができる。

学校としての本プログラムの位置づけ・目的・獲得目標 (7月12日実施 二之江第三小学校)

教科 : 理科

単元名 : 生物とそのかんきょう

◇教科としての目標

生物と環境のかかわりについて興味・関心をもって追究する活動を通して、生物と環境のかかわりを知るとともに環境を保全する態度を育て、生物と環境のかかわりについての見方や考え方をもちつことができるようにする。

- 生物の間には、食う食われるという関係があることが分かる。
- 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていることが分かる。

指導計画(全6時間)

1. 食べ物を通した生物どうしのかかわり:3時間

生物は食べ物を通してどのようにつながっているのか、葛西臨海公園での実地調査により調べる。

2. 生物と空気のかかわり:2時間

植物は日光が当たると二酸化炭素を取り入れて酸素を出しているということを実験する。

3. 振り返り:1時間

これまでに学んだことを振り返り、生き物と水、空気とのかかわりについて理解を深める。

◇その他、活動を通しての目標

- 地域(葛西地区)にある公園としてのとらえ方を見直すなど、臨海公園への理解を深め、地域への愛着を育てる。
- 実際の生物を観察し調査することから生物と周囲の環境について興味・関心を持ち自ら調べようとする態度を育てる。

学校としての本プログラムの位置づけ・目的・獲得目標 (7月18日 臨海小学校)

教科 : 総合的な学習の時間

単元名 : 環境教育(6年)

○教科としての目標

地域の自然に触れることを通して、生物に興味を持つ。その生物と環境の関わりについて興味・関心を持ち、地球規模で自然を大切にしようとする意識を養う。

☆東京湾について知る

☆東京湾の生物について学ぶ

☆食物連鎖について知る

☆環境と生物のつながりを意識する

○指導計画(全8時間)

- | | |
|--------------------------|-----|
| 1、東京湾に生き物がいることを知る | 3時間 |
| 2、プランクトンのような小さな生き物について学ぶ | 2時間 |
| 3、食物連鎖について知る | 2時間 |
| 4、まとめの新聞 | 1時間 |

○その他

地域にある海に隣接した立地条件を生かし、海の生き物の学習を通して自然を愛する心を培う。

実施風景

(水上バス 担当海洋大学宮崎助教、生態計画研究所大原氏 他)



水上バスに乗って東京湾へ。沖合で停船して海水を採取して透明度や塩分濃度、温度などを観察をします。



船内やデッキから鳥類の観察を行います。

プランクトン観察

@クリスタルビュー 担当海洋大学石丸名誉教授



水上バスで採取したり、事前に海洋大学の先生が採取した海水を顕微鏡で調べてどのようなプランクトンがいるかを調べて「指令書」に記入していきます。



チリメンモンスターをさがせ

@クリスタルビュー 担当海洋大学河野教授

いわゆるチリメンジャコとかしらす干しと言われるものの中には、本来のカタクチイワシの稚魚以外にも昔はいろいろな生き物が混じていました。ですが、今はそれらは「異物」としてとりはらわれてしまうのだそうです。「チリメンモンスター」とはチリメンジャコの中からそれらの生きものを探すプログラムです。探しだした「モンスター」たちを、自分たちで調べたり先生にたずねて分類をします。





チリメンジャコの中に隠れた様々な生物を見つけて分類します。最後に自分の見つけた生き物の中から「ベストスリー」を発表。